

(資料1)

木曾岬干拓地の土地利用に関するサウンディング調査の結果について

1. 調査の目的について

伊勢湾岸自動車道より南側の環境影響評価後（概ね3年後を想定）の都市的土地利用策定については、3段階（「構想発案」→「都市的土地利用計画の方向性策定」→「都市的土地利用計画の策定」）で検討を進めていきます。

令和2年度は、まず第1段階として、どのような土地利用が考えられるのか意見を幅広く民間から収集することを目的として、令和3年1月29日に国土交通省、内閣府主催で開催された「官民連携事業の推進のための地方ブロックプラットフォームサウンディング」（Web形式）に参加しました。企業は3社が参加しました。

2. 調査の結果（参加企業からの意見の概要）について

（1）矢作地所株式会社※矢作建設グループの土地開発部門を担う企業

例えば河川上をルート（水面上ルート）とするドローン輸送の物流拠点の可能性が考えられる。

（2）株式会社三菱UFJ銀行※総合金融グループである三菱UFJフィナンシャルグループの主要企業の一つ

広大な土地であるので空飛ぶ車プロジェクトを活用した物流拠点の可能性が考えられる。

（3）やればできるこJAPAN株式会社

統合型リゾートを中心とした、スマートシティのコンセプトに基づく観光拠点の可能性が考えられる。